

## 「名桜大学学習支援教室ぴゅあ」事業報告書

### □概要

- ・ 目 的：大学生と中学生が修学旅行に参加し、その交流を通して沖縄の歴史と文化を体験的に学ぶこと。学校外での学びの体験に乏しい子ども達へ社会体験や学びの機会を提供すること。
- ・ 日 程：平成 27 年 12 月 19 日（土）～20 日（日）1 泊 2 日
- ・ 参加者：中学生 15 名，大学生 15 名，引率者 1 名，運転手 1 名 合計 32 名
- ・ 行 程：1 日目 名護中央公民館（出発）～平和祈念資料館～国際通り～宿泊施設  
2 日目 宿泊施設～中城城跡～イオンライカム～名護中央公民館（到着）

### □参加した大学生の声

#### 1) 教室長：石井 恒之介（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科 3 年次）

沖縄の歴史と文化を学び合う大学生と中学生の交流の旅（以下、修学旅行）を、一昨年、昨年と引き続いて、平成 27 年 12 月 19 日～20 日に 1 泊 2 日で行った。今回で 3 度目となる修学旅行は、中学生 15 名，大学生 15 名，引率 1 名，運転手 1 名の計 32 名となり、年々参加する中学生の人数が増えてきているのが喜ばしいことである。

普段は、学校であるいは学習支援教室ぴゅあ（以下、ぴゅあ）でしかほとんど会う事のない中学生同士が寝食を共にする事で新しく友達ができたり、より仲を深める事が出来たりする事が、この修学旅行の醍醐味である。今回の修学旅行でも、ぴゅあになかなか来る事の出来ない生徒が参加し、中学生同士だけでなく大学生との関係を築く事も出来た。修学旅行が終わった後は、中学生から「楽しかった」、「またこのような機会があるといい」といった感想もあり、この修学旅行を行う意義を感じた。

また、沖縄の歴史と文化を学ぶという事で、1 日目には忘れてはならない沖縄戦について知る事のできる平和祈念資料館、戦後に奇跡の 1 マイルと呼ばれた国際通りを巡り、2 日目には琉球王国の時代を現代に伝える中城城跡を訪れた。これは、学校の授業などから学んだ沖縄の歴史や文化といったものを、当時の資料を見たり、実際の場に訪れたりする事で知識と体験とが結びつく経験させる事を目的の一つとしており、見学の後に中学生から平和を望む声、先人達の工夫に感心をする声があがったため目的を無事達成することができたのではないかと感じた。

その他、大学生にとっての学びも多くあった。普段はぴゅあで勉強する中学生の姿しか見る事ができないが、この修学旅行ではぴゅあ以外の生活の姿を見る事ができた。道中の

バスの中で友達と楽しそうに話す子、自分の好きなものを見つけて目の色を変える子、知らない話に耳を傾け、理解しようとする姿勢を見せる子など、今まで見た事のない姿はどれも新鮮で、中学生の新たな一面を知る事でより一層理解をすることができ、今までより更に中学生に即した学習支援ができるのではないかと感じた。また、支援を行っている大学生の大半が沖縄県外出身者という事で、沖縄の歴史と文化を学ぶ良い機会になった。初めて訪れる場所があるという学生も多く、今後、支援の中であるいは教員になった際に必要な経験が出来たのではないかと感じた。

ぴゅあで行う修学旅行は、中学生、大学生の双方にとって利益をもたらすものである。今回で 3 度目の修学旅行が終わり、新たな反省点や課題も出てきたが、これらを改善し、次年度に繋げ、より良い企画となるようにしていきたい。また、修学旅行において学んだ事をこれからの支援に活かす事が求められるので、情報共有を行いながらより良い支援を目指していきたい。今回、3 度目の修学旅行を実施する事が出来たのもおきぎんふるさと振興基金からの助成を頂いたおかげであり、大変感謝しています。本当に有難うございました。

## 2) 学習支援員：大岩 加奈（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科 2 年次）

今回、名桜大学学習支援教室ぴゅあ（以下、ぴゅあ）の修学旅行を中心となって進めていくことに決まり、正直不安しかなかった。というのも、昨年度の修学旅行は私がぴゅあに加入した時には計画の大詰めに入っている段階であったため、計画の過程を何も把握していない状態で修学旅行に参加したことで、いざ計画の中心メンバーになったところでのように進めるべきか分からなかったからである。しかし、昨年度の修学旅行についての資料と先生・先輩方のアドバイスに助けられながら無事に計画・実施することができた。

まず 6 月の全体ミーティングで修学旅行の計画メンバーに決まり、7 月に名護市の各中学校の行事日程を調べ、修学旅行の日程を 12 月 19 日（土）、20 日（日）に決定した。そして、7、8 月中に見学施設やコース、ホテルを決め 9 月下旬に実施に下見に行き、バスの駐車スペースやホテルの様子を確認。修学旅行の参加の募集開始を 10 月下旬～11 月末に決定し、それに向けてバスの予約、見学地へのアポ取り、食事場所の検討、予算の最終確認を行った。なお、当初は 1 次募集と 2 次募集を計画しており、中学 3 年生の参加人数次第で中学 2 年生からも参加者を募る予定であったが、3 年生の参加希望者で定員に達したため、1 次募集で締め切った。そして 12 月第 1 週目でしおりの完成、修学旅行のある週で配布。さらに、見学施設に関する知識を学ぶため、しおりの配布とともに 30 分ほどの事前学習とルールの確認などを行った。修学旅行前最後の全体ミーティングでは、当日の流れを確認するとと

もに、改善すべきところを指摘・変更するなどの最終調整を行った。また、同行してもらった看護師とバスの運転手とも最終調整を行った。基本的に計画は私たち 2 年次が中心となっていたが、しおりや食事の手配、見学施設のアポなどは 1 年次の学生とも分担して進めることで、1 人 1 人の負担は軽くなったと思うし、効率も良くなったと思う。

修学旅行当日は子どもたちの体調不良はあったものの、大きな事故もなく無事に実施することができたと思う。昨年度に比べると予算に余裕があったため、ホテルの宿泊に夕食をつけ、全員で夕食を食べることができた。子どもたちもみんなで楽しく食べることができたようで、うれしそうな顔を見ることができて良かったと思う。しかし、全体としては成功ではあるが、まだまだ課題もある。細かいところの詰めが甘かったなど、改善すべきところを見つけることができたので、今回のことを生かして来年度はさらによりよい修学旅行を実施したい。

#### □総 評

名桜大学学習支援教室ぴゅあ顧問（公立大学法人名桜大学国際学群教授 嘉納 英明）

名護市学習支援教室ぴゅあは、名護市と名桜大学の連携事業として、平成 25 年度から始まった。週 3 回、名護市内の中学生（生活困窮世帯）が通学バスに乗り、大学の教室で支援者の学生から学習支援を受けている。支援者は、教職を履修している学生である。こうした教室での学びだけではなく、学外での学びの機会を広げたいということで、「おきぎんふるさと振興基金」に応募し、助成金を受けることができた。これまでも、学外の助成金を受けての修学旅行（学習旅行）を実施してきたこともあって、今回の旅行の立案・実施に至るまで、学生主体でやり遂げることができた。行事を実施することで、学生自身の企画立案力が身についたものと思う。

教室長の石井君が「普段は、学校であるいは学習支援教室ぴゅあ（以下、ぴゅあ）でしかほとんど会う事のない中学生同士が寝食を共にする事で新しく友達ができたり、より仲を深める事が出来たりする事が、この修学旅行の醍醐味である」と述べているように、学生と生徒、生徒相互の関係性を深めることがこの修学旅行の最大の目的であった。この目的は、十分に達成されたものと思う。また、支援者の学生は、県外出身者が多く、沖縄の戦跡や平和学習の資料館等を訪れる機会もそれほど多いわけではない。今回の修学旅行で、学生自身も沖縄の歴史を学び直す貴重な機会になったものと思う。

最後になったが、充実した学生と中学生の修学旅行ができたのは、沖縄銀行の助成金を頂いたからである。感謝したい。



出発式の様子（於：名護市民会館）



平和祈念資料館にて不発弾を見る



中城城跡にて歴史の説明を受けている



当時の城の大きさなどの説明を受けている